

編集後記

3月とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。今年に入ってずっと寒い日が続き、例年にない寒さを感じます。外に目を転じると、アルジェリア人質事件を初め、グアムでの無差別殺傷事件、など、日本人が巻き込まれる事件が相次いでいます。また、日中、日韓を初めアジアでは多くの領土をめぐる紛争が絶えません。アジアを初め欧米でも、数か国で政治のトップが交代し、ヨーロッパ経済は安定せず、相変わらず世界経済の不透明感は消えていません。そうした中で、日本の新政権は順調に滑り出し、近来にない明るさを漂わせています。こうした状況もいつまで続くのか、と言った冷めた見方もあります。しかし、ネガティブな見方をするより、もっとポジティブに前向きに捉え、どうすれば持続できるのか、を考えた方がいいのではないのでしょうか。なぜなら余りにも長い間、日本経済は停滞し、このまま革命的な手を打たなければ、間違いなく泥沼にはまり込む可能性が高いからです。いいことはどしどし試してみる価値があるでしょう。まずは新政権の行方に注目したいと思います。

こうした状況の中で、*e-Magazine* 第4号をお送りします。今回の *e-Magazine* は巻頭言に永野理事が書きました。永野理事が指摘するように、日韓の共同作業で韓国南部に綿業を復活することで日韓関係を深化させることができるかもしれません。これは戦前の植民地時代に日本が行っていた綿花栽培の復活ということです。一考に値すると言えましょう。

2番目の論考は嶋野さんのタイで日本語教師をした経験をつづったもので、大変貴重な論考です。タイの人たちが日本語を勉強することを助ける仕事に生きがいを感じる嶋野さんの様子がよくわかります。最近では、世界中に日本女性が出かけていき、日本語を教える時代になっていますが、こうした地味な活動こそは日本の親善大使の役割であり、日本と多くの国との関係の基礎になるものです。もっともっと多くの若者がこのような活動に参加してくれることを期待したいものです。

3番目はアジア経済研究所の水野順子さんの論文です。これはわが研究所の講演会で話していただいたものを中心に、新たに書き下ろしたものです。韓国の対日貿易赤字が長い間続いており、これが日韓の FTA 交渉にも翁障害となってきました。しかし、日韓の問題となってきたのは、韓国の輸出企業が戦略的にカラーテレビ、VTR、半導体、LCD パネルなどの日本の主力輸出品の技術を選択して、大規模投資のためにコアとなる資本財、生産財を日本から輸入し、短期間に世界市場でのシェアを急拡大する戦略を採用してきたことです。そのことは韓国企業が日本の技術ネットワークに参加することであり、またそれが対日依存度を高め、輸入を誘発して対日赤字を拡大させてきたというわけです。ところが韓国は日本が韓国の中小企業に技術移転をしないからいつまでも脆弱であり、そのことで日本の中小企業から部品や素材の輸入を強いられてきた。そこで、日本側が韓国企業にもっと技術移転をすべきだと主張してきた。そのことを水野氏らの研究は間違った主張で

あることを検証したわけです。その意味で、画期的な研究成果と言えるでしょう。

4 番目のラブチェフ・セルゲイ氏の論考は、最近の経済発展目覚ましいカンボジアの動向を経済・社会の側面から考察したものであり、それと並んで、後ろに掲げた 11 枚の写真はカンボジアで急速に進む近代化の様子をよく表しています。筆者が 10 年ほど前にカンボジアを訪問した際にはまだ大学の体を成してなかったのですが、今や多くの大学生が必死で勉強しているようで、頼もしく感じます。誇り高く、優れた能力を持つカンボジア人がやがて多くの外国企業で中心的な仕事をする日が来るのも遠いことではなさそうです。最近日系企業の進出も徐々に進みつつあるようですが、ラブチェフ氏はもっとも日本企業が進出することを期待しています。

「ニュースの裏を読む」は最近脚光を浴びている BOP ビジネスについて、その紹介と問題点を指摘しています。これまで高い技術に基づく高品質の商品を生産し、それを輸出することを考えてきた日本の中小企業が、世界人口の 60% を占めるといわれる最低所得者層を対象に、安い商品を生産して輸出することで、停滞から脱却できるのではないかと、政府が音頭を取って奨励するという事態も起きています。これはある意味で日本の中小企業にとっては朗報であるように見えるが、他方では大きな問題も含んでいます。たとえば本稿で、発展途上国の消費の促進だけを狙うもので、自立を促すべきはずなのにそれをむしろ阻害することになるのではないかと、という辻氏の指摘であり、まさに論理的にはその通りであろうと思われます。重要なのは先進国と発展途上国が相互に利益を共有することでなければ相互に持続しないということでしょうか（KN）。